

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

平成20年度 技術情報第10号(ハスモンヨトウ)について (送付)

大豆、野菜類、花き類を加害するハスモンヨトウに関する情報を取りまとめましたので送付します。

---

## 平成20年度 技術情報第10号

県内各地のフェロモントラップでハスモンヨトウの誘殺数が急増しています。今後、大豆や野菜類で被害の多発が予想されますので、初期防除に努めてください。

- 1 対象病害虫           ハスモンヨトウ
- 2 対象作物            大豆、野菜類(サトイモ、オクラ、根深ネギ、イチゴ等)、花き類
- 3 予報内容
  - (1) 発生地域        県本土
  - (2) 発生量         やや多
- 4 予報の根拠
  - (1) 大隅支場でのフェロモントラップ誘殺数は8月第1半旬から急増し、出水市、南九州市、霧島市及び曾於市に設置してあるフェロモントラップでも同様に増加している(図1, 2)。
  - (2) 7月下旬の巡回調査での発生ほ場率は、サトイモで79%(平成44%)、イチゴでは35%(平成14%)と平成より高かった(表1, 図3)。
  - (3) 8月上旬の調査でも鹿屋市串良町のサトイモで発生が多く、南さつま市金峰町の大豆ほ場でも発生を認めた。
  - (4) 向こう1か月の天候は、平成と同様に晴れの日が多いと予報されており、発生しやすい条件が続くと予想される。
- 5 防除上注意すべき事項
  - (1) 卵塊や分散前の若齢幼虫を発見したら、速やかに寄生葉を摘み取り処分する。
  - (2) 若齢幼虫は集団で加害し、表皮だけを残して食害するので、発生を目安にする。特に生育初期の豆類は被害が大きいため初期防除に努める。
  - (3) 中・老齢幼虫になると薬剤に対する抵抗力が強くなり防除が難しくなるので、若齢幼虫期の防除を徹底する。なお、BT剤やIGR剤を使用する場合は、遅効的であるので時期を逸しないように早めに散布する。
  - (4) 同一系統薬剤の連用を避け、作用性の異なる薬剤とのローテーション散布に努める。

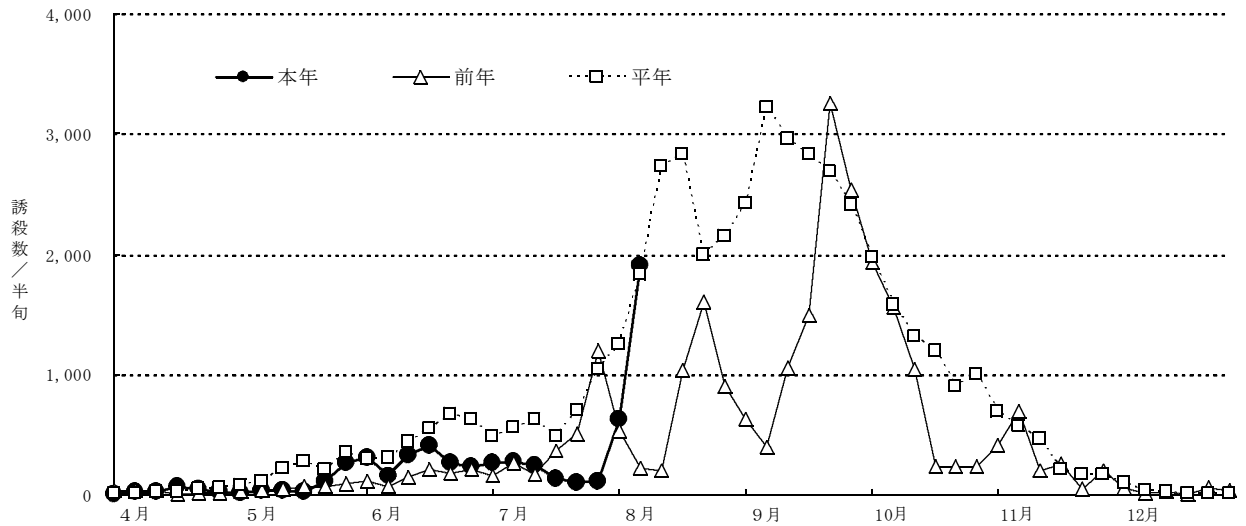


図1 フェロモントラップによるハスモンヨトウ誘殺状況（鹿屋市：大隅支場）

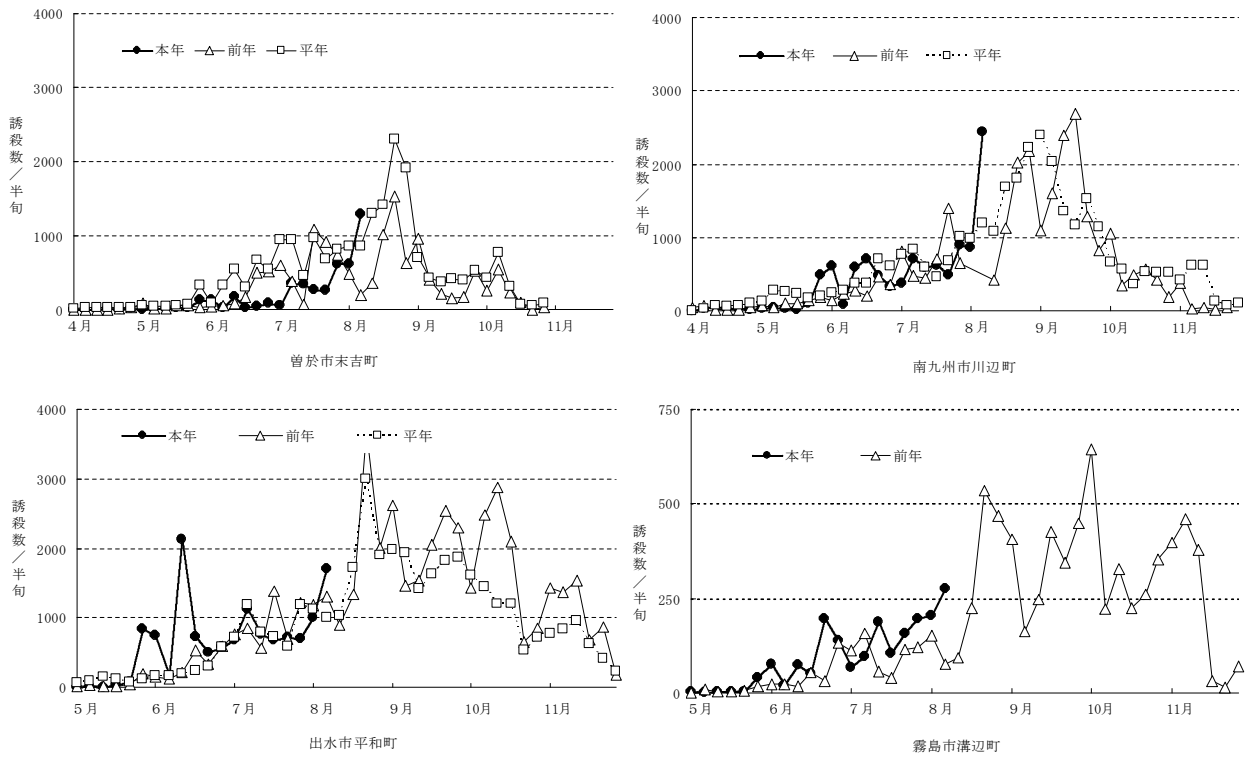


図2 県内各地でのフェロモントラップによるハスモンヨトウ誘殺状況

表1 ハスモンヨトウの発生ほ場率(%)

| 作物名  | 本年 | 前年 | 平年 |
|------|----|----|----|
| サトイモ | 79 | 29 | 44 |
| オクラ  | 10 | 0  | —  |
| 根深ネギ | 6  | 17 | 7  |
| イチゴ  | 35 | 21 | 14 |

7月下旬調査

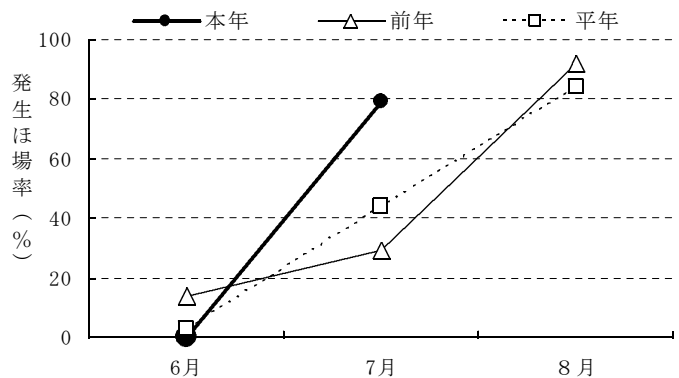


図3 ハスモンヨトウの発生推移（サトイモ）